



「ブー」というくらい。それでも、鬼の首をとったように歓喜した。そこでさっそくいく人かの寮生に呼びかけて、尺八の発表会に招待することにした。

当日は、夕食後、私のいた明寮一番の部屋に、6、7名の友人が集まってきた。皆、期待に溢れて、うれしそうな顔をしている前で、おもむろに尺八をだして口につける。半ば目を閉じ、尺八を口にあって、じゅうぶん息を吸う。「ブー……ブツ」1分にもならぬうちに、息も音も切れておしまい。「発表終わり」というと、どおと皆が大笑い。「へえ!それだけか」がっかりした様子。なかには、「なんだ、だましたな」とフンガイするものもいた。私自身は、1ヵ月の大変な努力の成果を一発の音にこめて吹いたのだから、すましたもの。2、3人の仲間が「そんなのなら、オレでもできる。ちょっとかせよ」というので、ここぞとばかり、「やってみろ。わかるから」と、尺八を手渡す。「スー」の音もでない。「みろ、オレはえらいんだぞ。ブーッと、いうんだから」と威張ってみせる。何人かが、いれかわっても、同じく「スー」と、空気が竹筒をぬけていくだけ。「やあ、むずかしいんだな」と首をかしげる。「それみろ、だから、発表会をしたんじゃないか」、もう一度そっくり返ってみせた。が、あとで考えてみると、やはり、少々ヘンな発表会だったな、と思い直したりしたものである。

これも、若き日の1つの挑戦といえるのだろうか。

参考:

1. 旧制一高入学(1942年4月)まもなく、宋渕禅師に出会う。
 2. 学徒出陣(1943年12月1日 - 45年8月15日)
 3. 東大復学(1945年10月 - 51年5月)カトリックの受洗
 4. 欧州滞在(仏、伊1951年 - 59年)カルメル修道院に入会
 5. 帰国(1959年10月)
- * 宋渕禅師遷化(1984年3月78歳)

P.G.I.のお知らせ

・ 三好耕三 写真展
CAMERA / 写真機

2002年4月3日(水) ~ 6月1日(土)

なお4月27日(土) ~ 5月6日(月)は臨時休館し、
最終日6月1日は「写真の日」にあたり特別開館致します。

写真家三好耕三が「写真」に興味を抱いた当時から愛用し、大切にしてきた「カメラ」を捉えたユニークな作品です。1972年の作品発表から30年後に被写体として見つけた「もの」は、最も身近な「小型カメラ」そのものでした。学生時代に使っていたものやゴミ捨て場で拾ったもの、埃だらけのジャンクショップで見つけたもの、知人から貰ったもので、それらすべてが作者と人生を共にしてきた、愛おしい形ある「もの」でした。

そのような「カメラたち」の顔は、それぞれの時代を反映するかのようには様々な表情をしています。

展示されるプリントは全紙大で、カメラは実寸の数倍の大きさに表現され、カメラの目となるレンズに焦点が合わせられています。約30台のカメラの「顔」を展示いたします。



・ 末穂佐英子 写真展
ヨーロッパアンサーカスの人々

2002年6月5日(水) ~ 28日(金)

フォト・ギャラリー・インターナショナル

東京都港区芝浦4-12-32 TEL.03-3455-7827 FAX.03-3455-8143
JR田町駅芝浦出口(東口)より徒歩10分 [入場無料]

【営業日】月~金 【休館日】土・日・祝日

【営業時間】11:00 ~ 19:00

* P.G.I. についての詳しい情報はホームページ(<http://www.pgi.ac>)をご覧ください。

表紙の言葉



写真: クリス・スティール / パーキンス
アフガニスタン、1994年
写真提供: マグナム・フォト・東京支社

日没時、ジャラバード郊外の橋の上で警備につく若い兵士

「…兵士たちは全員若い男で、なかには十代になったばかりの少年もいる。みな家族と離ればなれだ。貧しくて教育も受けていないが、おおざっぱで、温かくて、親切な人びとである。世界中どこかの戦場の若い兵士もそうであるように、彼らもまた冒険心、お金、食べ物、そして部族への忠誠心のために闘っている。せっぱつまった心柄から、混乱した単純なスローガンのために闘っているのだ。兵士たちがスローガンの意味を正しく理解しているとはいえないし、いずれそのためにこのなかの何人かは死んでゆくというのに。イスラム、純粋なイスラムのために。戦闘の理由はそれで十分なのである…」

写真集『アフガニスタン』クリス・スティール = パーキンス (晶文社刊)より